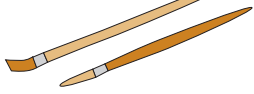


かくぞう

たのしい Tシャツづくり

絵の具とTシャツのほか、次のものをご用意ください

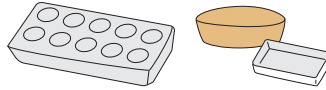
筆、ブラシ



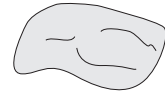
下じき (画用紙、ボール紙など)



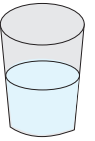
絵の具をうすめたり混ぜたりする容器



色を確かめたり、筆を拭いたりする布ぎれ (Tシャツの生地とよく似た生地のもの)



水



絵の具が散ったり、こぼれたりすることがあるので、まわりをカバーしておこう。服につくこともあるよ。

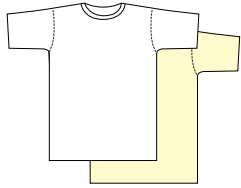
Tシャツに下じきを入れる

Tシャツに描くとき、筆の動きに生地が引っ張られて、スムーズに描けません。また、絵の具が生地の裏ににじんで、汚すおそれがあります。それを防ぐため、Tシャツの中にボール紙または画用紙などの下じきを入れます。

下じきに「地張り糊」をスプレーしておくこと、生地にピッタリ貼り付き、描きやすくなります。



白地または淡色のTシャツ



「濃縮 (のうしゅく) カラー」と「うすめ液」を混ぜて色を作ります。

「濃縮カラー」はそのまま塗ることもできますが、工場出荷時は、これ以上濃くはできないというところまで濃くしています。

「うすめ液」を混ぜることによりうすくなり、ほかの色ともなじみやすくなります。

色をうすめる目的で水を混ぜないで下さい。絵の具がにじむだけで効果がありません。水は絵の具が乾燥して描き難くなったとき、絵の具や筆先を調整するとき、お使い下さい。

	濃縮カラー 100%	濃縮カラー 75% うすめ液 25%	濃縮カラー 50% うすめ液 50%	濃縮カラー 25% うすめ液 75%	濃縮カラー 10% うすめ液 90%
レッド					
ブルー					
イエロー					
ブラック					

かくぞうのつくりかた

青といつても空の青と、海の青は色が違います。また、天候や時間によっても変わってきます。市販の一般絵の具で、数十種の色を用意しても、ズバリ目的の色はまずありません。

かくぞうは、ブルー、レッド、イエロー、ブラックの4色とうすめ液で、ほとんどの色が作れます。描こうとするものをよく見て、感覚的に「〇〇の中に△△を少し入れて、うすくすれば、この色ができる」そんなことがわかってくると、絵を描くのが楽しくなります。

濃い色のTシャツ



「Tシャツえのぐセット」は「ホワイト」が入っていません。別売りの「ホワイト」をお求め下さい。

濃い色のTシャツにカラーを塗ると、しみ込んで見えなくなります。

まず「ホワイト」で描きます。乾いたあと、その上にカラーを塗り重ねます。「ホワイト」から、はみだしたカラーは生地にしみこんで、わからなくなります。



レッドだけを塗りました

ホワイトを塗って乾かした後、レッドを塗り重ねました

「ホワイト」とほかの色を混ぜると色がにごります。

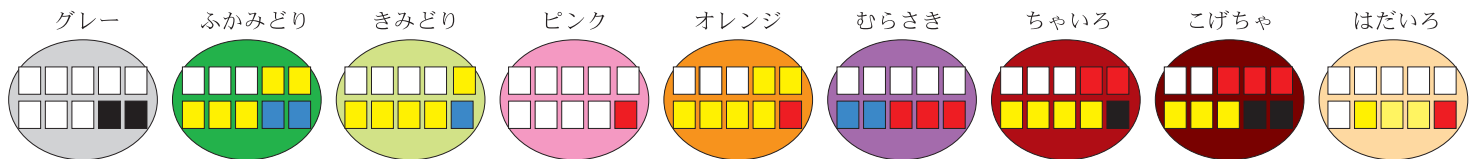
濃い色のTシャツに淡い色を塗るのは宿命的にきれいに表現できません。それなりに手数もかかり、色落ちのおそれも派生します。

おもしろい色づくり

「濃縮カラー」は4色でも、「うすめ液」とあわせて混ぜることによって色は無限に作れます。

下の図はその一例です。四角形の数カラーを混ぜる比率。白い四角形は「うすめ液」です。

ブラック、ブルー、レッド、は少しの量でも効果がありますが、イエローは考えた量以上に多く入れなければ効き目がありません。



できあがり

絵の具が乾いたら下じきを取り除いて下さい。

色落ちを少なくするために洗濯は三日ほどお待ち下さい。お急ぎの場合はアイロンをかけても同じ効果になります。

色落ちの程度は市販のTシャツのみです。どんな高級な染めやプリントでも、絶対に色落ちしないというものはありません。

いろいろなものに応用できる

Tシャツだけでなく、ジーンズ、エプロンなどはもちろん、コットンの旗やのぼり、横断幕、鯉のぼりだって作れます。

旗や横断幕、ゼッケンなどには調色しないで、そのまま塗れる「標準色」があります。ご利用下さい。

カーテン、絨毯、クロスの壁面のよごれに「かくぞう絵の具」を調色して塗るとキズが目立たなくなります。

コットンまたはその混紡以外は色落ちすることがあります。

「かくぞう絵の具」は有害物質のホルムアルデヒドは含まれていません。